



尿道閉鎖機構に関する モデル動物を用いた実験形態学的研究

保健福祉学部 看護学科
教授 津森 登志子 (つもり としこ)

連絡先 県立広島大学 三原キャンパス 4523 号室
Tel: 0848-60-1222 (直通) Fax: 0848-60-1134
E-mail: t-tsumori@pu-hiroshima.ac.jp
(@は半角に置き換えてください)

専門分野: 解剖学・組織学一般・神経解剖学

キーワード: 免疫組織化学, 免疫電子顕微鏡法, 神経路標識法
女性医療職・研究者支援, マタニティ白衣

● 主な取り組み・活動

助産学・理学療法学領域との協働による、尿漏れのメカニズム解明とその予防と治療に貢献できる基礎的な研究の推進

多くの女性が経験する妊娠中・出産後の尿漏れは、女性の社会進出が期待される中、QOLを低下させ早期の職場復帰を阻害する要因の一つと考えられます。加齢や肥満などによる尿漏れは、女性のみならず男性においても見逃すことができない問題です。しかし、尿漏れが起きるメカニズム、その予防や治療法の開発についてはまだ検討の余地が多く残されています。平成26年度から本研究テーマに着手し、得られた結果は第120～123回解剖学会全国学術集会で発表してきましたが、H29年度からは科学研究費の採択課題(下記)として本格的に研究を進めています。

*採択課題: 基盤C(一般)17K01523「経膈分娩と閉経が尿禁制機構に与えるリスクを実験形態学的観点から解析する」2017-2019

*採択課題による成果: (国際誌への論文掲載) T. Tsumori, W. Tsumiyama. Sexual and regional differences in myosin heavy chain expression in the rat external urethral sphincter. Anatomical Record. 300: 2058-2069, 2017

学外機関との共同研究実績

免疫組織化学的解析や神経路標識法などの実験技術を提供することにより、島根大学医学

部精神医学講座との科研費による共同研究2件を行っています。「治療抵抗性統合失調症におけるグリア-ニューロン回路網異常の解明」(基盤B・15H04894 分担), 「『骨髄移植が統合失調症の究極的根治療法となるか?』を解明する」(挑戦的研究(萌芽)18K19516 分担)

● 今後の目標・抱負

尿漏れの予防や改善のための取り組みがエビデンスに基づいた効果的なものになるよう基礎的な研究を継続し、成果は随時発信します。

● 地域・社会と連携して進めたい内容 女性医師・研究者用マタニティ白衣の普及

島根大学医学部(島根県出雲市)在職中に、医学部附属病院の女性医療職支援組織及び全学的な女性研究者支援組織に所属し、家庭と仕事の両立支援、キャリア教育に関わって来ました。これらの活動の中で、それまで存在しなかった「コートタイプマタニティ白衣」を産学連携で開発し、特許を取得しました(特許第5773420号)。共同開発先は、大東白衣(島根県雲南市)と日昇産業株式会社(広島市)です。本白衣は日昇産業が販売され、全国様々な地域から個人購入あるいは公的病院からの購入がなされています。今後はマタニティ白衣の認知度をさらに高め、多くの女性医療職・研究職・教職の方々にご利用してもらえるようにPRしていきたいと考えています。

● これまでの連携事例・実績

産学連携によるコートタイプマタニティ白衣の開発経緯の詳細、メディアへの掲載実績などは下記をご覧ください。

<http://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/wlb/report1/info7-1.html>
<http://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/wlb/report1/info7-4.html>
<http://medical.nikkeibp.co.jp/inc/all/info/about/campaign/maternity.html>